

「自分だったらどうする」(45～50分)

対象/小学生(4-6年)・中学生・高校生

1. プログラムの趣旨

様々な問題や課題について、自分のこととして置き換え、自分の考えや相手(他)の考え(価値観)を知ることで、自分の考えを見つめ直し、理解を深める。

2. ねらい

実際にあった災害事例をもとに、災害という状況の中で、判断・選択しなければならない体験を通して、考える力、想像する力を養う。

3. 展開

段階	学習内容	教師の支援・指導上の留意点
導入 (10分)	<p>【ルール説明】</p> <p>①5名がひとつのグループになる。(5名が難しいようであれば、ひとつのチームが奇数人数になるようグループを作ることが望ましい)</p> <p>②一人ずつカード(A、B、Cのカード各1枚)、ワークシートを配る。(ワークシートは、問題の数だけ配る)</p> <p>※ABCカードは付属CD-Rに収録。</p>	<ul style="list-style-type: none"> あらかじめグループ分けをしておくルール説明がスムーズになる。 正解を探すのではなく、自分ならどのような選択をするか、が大切であること、他者の意見をよく聞き、また自分の考えと向き合うことが大切であることをルール説明に加えるとよい。
展開 (10分×3題)	<p>③チームごとに配られた問題を、グループの代表者が読みあげる。まずは、個人で考える。考える時間は2分で、ワークシートに理由を記入する。(この時、自分の考えはまわりの人に教えてはいけない)</p> <p>④自分が考えた答えの該当するカードを、全員で一斉に開く。グループ内で自分の意見を述べ合う。</p> <p>⑤意見を述べ合った後の最終的な自分の考えを記入する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> グループワークが初めての場合、個人の考えを書く、話し合いをする時間は指導者の裁量で少し伸ばしても差し支えない。その場合は問題の数を減らしてもよい。 自由に話し合いがなされるよう、机間指導などで声かけをしながら促す。 設問を減らし、考える時間、意見を述べ合う時間を増やすことで、自分の考えや理解を深めることもできる。 カードC(その他)によって、考えの多様性を知ることができる。
まとめ (5～10分)	<p>⑥ふりかえり、やってみてどうだったかをワークシートに記入する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 授業時間45分、50分に対応する。 時間があれば感想などを発表させてもよい。 短い時間の中で選択を迫られ、選びとらなければならない場面があることも説明する。 多数派の意見が正しく、少数派の意見が間違っていることはない。少数の意見(他とは異なる意見)であっても、自分の意見を述べられること。また、他の意見を受け入れたうえで、自分の考えを改めて見つめ直し、述べることの大切さを伝えること。(意見が変わることは、負けではない。相手(他人)の考えに単に流されたのではなく、自分自身を深く見つめ直すことができる機会であることを伝える) 災害に関する新聞記事等から、新たに設問を作成することも可能であること。また設問を児童・生徒自身が見つけ出し、制作することで、問題や課題発見の気づきを促すこともできる。 付属CD-Rに収録の「自分だったらどうする」の活用にあたってを参考に説明する。